

## 第6期高津区区民会議 第1回全体会議（摘録）

□開催日時 平成28年7月25日（月） 午後6時00分～午後8時00分

□会場 高津区役所5階第2・3会議室

□参加者

区民会議委員 秋山委員、遠藤委員、大野委員、河西委員、角田委員、角地委員、  
堅田委員、菊地委員、後藤委員、小宮委員、坂田委員、櫻井委員、  
須見委員、日野屋委員、森委員、山田委員、横山委員、吉岡委員、  
吉田委員

参与 春参与、宗田参与

行政 山田区長、高梨副区長、滝口総務課長、鈴木地域振興課長、並木危機管理  
担当課長、鈴木橋出張所長、黒澤区民サービス部長、浅見保健福祉センタ  
ー所長、小林保健福祉センター副所長、河合保健福祉センター担当部長、  
庄司道路公園センター所長

事務局 中谷課長、小島担当係長、高橋担当係長、蟬川主任、熊島職員、戸田職員

□傍聴者 4名

□次第

1 委嘱状の交付

2 開会あいさつ

3 自己紹介

4 議事

(1) 第6期高津区区民会議運営要領（案）について

(2) 三役の選出について

(3) 調査審議課題について

(4) 会議の進め方について

(5) その他

5 閉会

司会:企画課 中谷課長

### 1 委嘱状の交付

山田区長が、各委員の名前を呼び上げ委嘱状を交付した。

### 2 開会あいさつ

- ・山田区長が行政を代表して、開会のあいさつをした。
- ・事務局が会議の公開などについて説明し、委員の了承を得た。
- ・事務局が配布資料の確認をした。

### 3 自己紹介

- ・委員、参与、行政職員が自己紹介をした。

## 4 議事

### (1) 第6期高津区区民会議運営要綱(案)について

事務局(熊島職員)が配布資料1ページ「第6期高津区区民会議運営要綱(案)」について説明し、承認された。

### (2) 三役の選出について

事前説明会で選出された通り、以下の委員が三役に決定し、各委員があいさつをした。

委員長：遠藤委員

副委員長：秋山委員・須見委員

書記：角田委員

議事進行：遠藤委員長

### (3) 調査審議課題について

事務局(熊島職員)が、配布資料3ページ「課題選定の考え方」(案)について説明した。特に委員からの意見・質問は無し。

次いで、配布資料4から8ページ「第6期高津区区民会議委員からの提案課題一覧」をもとに、各委員が提案した課題について説明をした後、意見交換をした。

#### 【委員提案課題の説明】

河西委員 溝口神社付近の道路は児童が良く通るが、道がカーブしていて見通しが悪く、いつも危ないなと思っていたので提案した。信号機を付ければよいというものでもないが、看板等を立てて、皆様と相談しながら出来るものならやっていきたい。

もう一つは、溝の口駅西口商店街は情緒があって良いが、夜になると店外にテーブルが出て邪魔になる。近くなのでなかなか言いづらいが、どうしたらうまく行くのかなということも含めて提案した。

日野屋委員 一方通行の道路は自転車も進入禁止で、降りて押して行かなくてはいけない。ほとんどの人が一方通行を逆走している。第5期の時にポレポレ通りで逆走をする自転車にパンフレットを渡して説明をした。特に子どもにそのことを徹底しないと、事故の元になる。また、商店街の方が歩道に一部商品を並べていて、河西さんも書いているが通行の邪魔をする部分が多々ある。そういうところの改善も図っていきたい。

坂田委員 町内会長という立場上さまざまな細かい問題点があるが、一番大きな問題は大勢の方に町内会に加入していただくことと自治会に未加入の大きなマンションだ。ぜひ自治会に加入もしくは別の自治会を作っていただき、地域のコミュニティに参加してもらいたい。これは防災また地域福祉の面でも非常に重要なことだ。加入促進はチラシの配布やいろいろと努力はされているが視点を変えて呼び掛けてみてはどうか。この地区で生まれ育った者は当然高津区を愛しているが、新しく越して来た方は高津区がまだよく分からない。都心の会社に行き、地元には寝に帰るだけだと地域に愛着がわかず、地域のコミュニティに全く興味を示さない傾向がある。そこで、高津区はこんなに素晴ら

しいところなんだ、文化的にも、歴史的にも、地理的にも大変素晴らしいと知ってもらい、高津区を好きになってもらうことが重要ではないか。それが強いては地域の活性化に繋がると思う。

遠藤委員長 川崎市は、市長をはじめ音楽のまちであるということが盛んに言われており、アジア交流音楽祭や川崎国際音楽祭、麻生の音楽祭等がある。高津区にも高津音楽祭があるが、両方の音楽祭に比べてちょっと規模が小さい印象を受ける。区民会議で取り上げる議題かどうか分からないが、コミュニケーションを含めた音楽祭というのがもう少し充実できると良い。

横山委員 すでに5期でもテーマとして取り上げた、地域のコミュニティ活動の活性化だ。防災の面でも防犯の面でも、行きつくところは地域のコミュニティがどのような形で豊かになっているかが課題だ。切り口としてはいろいろあるが、改めて三つ提案したのは、一つは小学校を切り口とした地域のコミュニティ作りだ。私は溝口第2町会に属しているが、高津小学校が町会の区域にある。朝晩子どもたちの登下校の見守り活動を行っているが、その際、見守り活動に参加している方々との交流の場がある。あるいは小学校の夜間開放でさまざま取組がされているが、学校開放を推進する上のネックもある。ネックを調査研究し課題を取り除く。小学校をテーマとして地域のコミュニティを活性化していく取組を考えてはどうか。

その他、高齢者の問題、障がい者の防災等含めた地域への取組だ。5期でもいろいろな形で取組まれてきたが、それを発展させたいという思いだ。

櫻井委員 マンションの住民を何とか組織化して、自治会、町内会に参加させて活性化したい。マンションをそのまま放っておくとまちが死んでしまう。マンションの住民がもう少し組織化してまちに積極的に参加する仕組みを作る。今高津区は約60%がマンションの住民だ。60%の人が何もまちづくりに参加しないまちは無い。5期では、防災という局面で提案をしたが、防災からまちづくりという局面で、マンション全体を連絡するような仕組みが出来ないか。

もう一つは、行政から見みるとマンションの中には管理組合と自治会という二つの組織が存在する。二つの組織をマンションの中に置くことが良いことか我々も考えているが、見直す必要があるのではないか。例えば千葉市や豊島区では、マンションの管理組合は自治会組織と同様な、町内会組織と同様な扱いをしている。高津には大きなマンションが結構あるが、大きなマンションがリーダーシップを取り、マンション全体の連絡を密にして、ベクトルをまちづくりに向かわせるべきではないか。せつかく5期の成果があるので、成果を生かしながら進めていけたらどうか。

角地委員 隣のまちの老人クラブが素晴らしい。町会単位とは考えていない。地域全体が良くなれないといけないという趣旨で、主体になるお金は町会から出て、後は皆様で会費を持ち寄る。そういう優れた素晴らしい老人クラブでありながら、非常に残念に思うのは、いくら老人クラブや町内会の役員が呼び掛けても、出てこない消極的な高齢者が多い。約100名登録されているが、毎月の定例会に参加するのは35から40名で、それ以外はなかなか出てこない。私は都心で民生委員児童委員や行政相談員を20年やってきたが、その時に比べるといかにももったいない。防災や福祉の面で考えても、そ

ういうお年寄りを仲間に入れるためにどうしたら良いのかということのを区全体で考えた方が良いのではないか。もう一つ防災の面は、ここに書かれている通りだ。

後藤委員 あなたの避難所はここですと案内板に書いてあるが、その避難所をどう使用しているかは誰も知らないのが現状ではないか。この課題は大きい。5期で避難所運営会議がありその中でいろいろな話し合いがあることは分かったが、内容についてはそこに住んでいる人には何も知らされていない。老人からすると、何かあったら避難所に行けば何とかなるという思いがある。それは違うんだよ、避難所はこういうところなんだよと言うことをきちんと伝えないと、本当の避難所として運営することが難しいのではないか。地域の方にどういう形かで教えて、情報として伝えていった方が良いと感じる。

もう一点は、5期ではマンションの防災計画ということで話し合いがあり、マンションの方たちに来ていただいた。その進捗状況も含めて、5期でやったよねで終わりではなく、何かもう一歩進んだ形ができると良い。

秋山副委員長 私のテーマは公園の活性化と革新だ。一言でいえば、今の公園は、皆様の満足のいく施設になってないのではないかという感じがする。皆様のお知恵を借りて、理想の公園がどういうものか考えたい。解決策はまったく私の思い付きだ。いろいろな角度から今の公園をもう一度検証して見直し、改善出来るところは改善したら良い。ただし、公園というのは人によって価値観が随分違う。活性化して楽しくて賑わってれば良いというものでもないし、静かなたたずまいを求める人もいる。その価値観をすべて満たすのは、非常に難しい課題だとは思う。まずは安心して過ごせる場所だ。⑥にあるように、キャッチボール、サッカー、ローラースケート等で遊んでいる子どもたちがいる。他のお子さんに接触すると危ないなと思うこともある。気候が良くなると、日中からお酒を飲む大人の隣で子どもたちが遊んでいる。こういうのは果たして環境としてよいのかという気持ちがある。このテーマにこだわるわけではないが、公園の問題を取り上げた。

森委員 自分の住んでいるところは、久末小学校の管内だ。久末小学校は避難所に指定されているが、高台にある。避難路は、市か区で指定しているのか、各自治会であるのか分からない。地震、水害等あった場合に、避難路が確保出来るのだろうか、また迂回路があるものか分からないので、課題として書いた。

小宮委員 「誰もが安心して住み続けることができるまち・高津区を作るには」ということで、地域コミュニティをどう作るかだ。民生委員児童委員をやりながら地区社協のメンバーとして活動しているが、区社協が進めている地域包括ケアシステムにどう取り組むかを、皆様と協力しながら区民会議で考えたい。解決策は空欄になっているが、常日ごろ問題に思っている要援護者支援制度について、皆様と確認する作業も出来ると良い。この要援護者支援制度は登録制で、災害が起きたときに避難所まで避難させる制度だ。その登録が今どんどん増えており、一人の民生委員児童委員が担当者を何十人と抱え、この支援制度自体が破たんしつつあり、見直す必要がある。それが解決になるか分からないが、隣近所との関係をうまく作るにはどうしたら良いか話ができると良い。

堅田委員 住民が防災対策に関して希薄化、忘れていることが多いと思う。避難所が遠い。収容能力はあるのか。家族数は自治会に加入している人は登録されたが、非会員はどう

するか。障害者と歩行困難者の把握がどれだけされているのか。自主防災組織があり、訓練は年に一回、二回やっているが、そういう活動以外はほとんどやっていない。それを活発に啓発的にやるのはどうか。野川は6分の1が高津区、6分の5は宮前区。避難所も自治会も宮前区にあるので、そこが課題だと思う。

もう一つ、橘地区には鉄道がなく、不便を感じている。南武線と田園都市線に向かうバスはあるが、中原街道が非常に混む。手前の中原で乗り継ぎ、武蔵小杉から東横線や多摩川線、日比谷線に乗るので、不便を感じている。中原街道で千年交差点から影向寺へ向かう道路の拡張をしているが、あまり進んでいない。地下鉄も立ち消えになっている。例えば37年に分譲地で自治会を作ったが、子どもが結婚すると別居して、戻ってこない。そうするとその物件をどうするのか。120坪を売却出来ないから不動産屋に任せる。不動産屋は8から10所帯のアパートにするか、分譲する。新しい人がなかなか住民に懐かない。地域に貢献しない。難しい課題だ。

もう一つは、区役所に来るバスが一時間に一本しか無い。橘出張所に行く時も、中原街道が混んでいて本数が少ないので、途中で乗り換えたり歩いたりする時間が無駄だ。ぜひとも活性化のために改善していただきたいというのが住民の思いだ。

吉岡委員 私は主任児童委員をやっている。今年度待機児童は6人という発表があったが、生活保護を受けている世帯は加わらない等、数え方が難しい。子育て中のお母さん等から話を聞くと、6人くらいなら一人ずつ入れればいいんじゃないかと言う。それはそうだなと考えるが、それが難しいから待機児童が6人ということになっている。そういうことが分かり易くお母さんたちに伝わると良い。

子どもたちの放課後の居場所が少ない。低学年の子はわくわくに入るが、高学年になるとわくわくに申し込む方はほとんどいないので、自宅や友だちの家で遊ぶ。ただ、働いているお母さんが多くなっており、留守中にお友だちが来るのはあまりというお母さんも多い。公園もボール遊びが禁止、キックボードも禁止だ。結局放課後公園に行ってもゲームをやっている。周りから見ると、公園でゲームをやっているとなるが、その子どもたちにとってみるとそれしか出来ない。どこか一箇所だけでもボール遊びが出来る等、場所が出来ると良い。ポケモンGOが配信されて、事故等も心配だ。

菊地委員 子どもの遊び場づくりを提案した。子どもたちの居場所が無いというのが大変大きな問題になっている。神奈川県の小学生の体力は、女子47位、男子45位だ。子どもの遊び場が不足していることは事実だ。高津スポーツセンターの運営を市から受けているが、体育館の抽選の倍率が200倍と大変利用者が多い。日本は、スポーツ施設は世界で一番多いが、その7割超が学校施設であり、いかに学校を活用するかだ。解決策ではないが、当法人では、久本小学校、高津中学校を拠点にスポーツ教室を展開しているが、あそこは小学校、中学校、市立の高津高校という三校が同じ敷地内にある。私も計画を作り、小中高中央支援学校の合築計画というのを市に出した。小中高を本来一貫校にしたいところだが問題もたくさんある。400mトラックとサッカー場、野球場、体育館が4面ほど取れる敷地があり、地下に大駐車場を作れば災害時の避難所として大型バス、トラックが入れる。小中高の市立での合築というのは日本では初めてで、大変素晴らしいエリアになる。地域包括ケアの拠点にしたり、高齢者のケアの拠点にした

り、さまざまな多目的に使えないかということで、今計画し提案をしているところだ。  
山田委員 老人クラブの活性化について提案する。老人クラブは平成13年をピークに会員が減少している。高津区では毎年複数のクラブが解散しており、歯止めの効きようが無い。何かいい方法があればということで提案した。

大野委員 第二橋踏切は、ある時間帯はちっとも踏切が開かない。30分くらい通れない。まだ電車が来ていないのに踏切が閉まっている。この時間帯は、通勤、通学、それから子どもを乗せたお母さんたちが保育園に預けて働きに行く時間帯だ。電車が来ないのに踏切が鳴ると、遮断機を持ち上げて中に入る。歩行者だけでなく、自転車も一緒になってくぐって行く。あの状況を子どもたちが見て、刷り込まれることもあるかなと考える。何か出来ることがあれば、区民会議で調査し、言えると良い。緊急性を要するので、皆様の知恵を教えてください。

それから地域コミュニティの文化活動と関係するが、音楽のまちということで、小黒童謡記念館を川崎市が掘り起し、今年に入ったら力を入れるということだ。区民会議も何か応援出来たらいい。区民会議をまだまだ知らない方が多いので、応援することで知ってもらおう。小学校を利用して童謡を歌う。公園を利用しても良い。コミュニケーションが出来ることで、災害の後の力が沸くようなことも出てくるのではないかな。

吉田委員 宮前区が高津区から分区して以来、見直しがされていない。私は梶ヶ谷地区に住んでいるが、宮前区の金山地区は元は梶ヶ谷地区で、二つに分かれた。古い地元住民には不満が鬱積している。見直しをする気運さえ持っていない。行政に対して何らかの働きかけをしたい。

もう一つは、区役所の案内表示板が適正かどうかだ。これは役所の人考える表示方法と、一般の人が見る表示の概念は違うということを確認していただき、その上で見直したらどうか。

角田委員 地域コミュニティづくりと地域活動の活性化という課題名にした。町内会活動を盛んにするとか、第5期の区民会議で取り組んだマンションの防災を切り口にしたコミュニティを強くする活動が必要だという問題意識を持っている。解決策としては、第5期で実施したマンションにおけるコミュニティづくり、防災対策に関する懇談会、これを発展的に継続、あるいは組織化する。これは必要ではないか。それから地域活動、市民活動の活性化、活動団体同士の連携のための情報交換の機会を提供する。どんなもんじゃ祭りや市民活動見本市があるが、もう少しいろいろな視点から見たような形で出来れば良い。

地域教育会議のチラシを配った。現在、紙の広報紙を出すことにどれだけ意味があるかということも考えてはいるが、全町内会連合会に、市民館だよりと一緒に7,000部を配っている。回覧板で回したり、掲示板に掲示する町会もある。WEB媒体が発展している中で、掲示板等の情報ツールの見直しも必要ではないか。PDFのチラシを載せてくれる市民団体もある。そういった活動をいろいろ調べ、市民活動、地域活動、そういったものに役立てる方法も検討してみたい。

須見委員 前期の区民会議に参加して、その時に取り上げた災害時の自助と共助意識の喚起、マンションの防災の問題、この二つを継続的に意識を喚起していきたい。同じ課題

でも、常に視点を変えて継続的にアピールすべき課題ではないかと思う。今期もなにがしかそれに関することを継続していくのはどうか。

### 【意見交換】

- ・小学校、中学校が避難所になっているが、夜間に地震が起きると門が閉っていて入れない。私の町会は坂戸小学校、東高津中学校が避難所だが、校門の鍵を預かっている。町会長という責任の下で万が一の時に門を開け、体育館の中に入れる。避難場所があっても、入れなかったら意味が無い。(日野屋委員)
  - ・高津小学校では、周辺の町会が皆鍵を持っている。(河西委員)
  - ・下作延小学校では、役員5名が分担して複数で持っている。(山田委員)
  - ・宮崎中学校が避難所なので、先ほどの分区の問題で情報が来ない。西梶ヶ谷小学校については鍵は町会長が持っている。(吉田委員)
- ⇒夜間や休みの日の発災に備え、二年前に鍵の保有状況を確認した。高津区には22の避難所があるが、こちらに関しては全て地域の方に鍵を預けている。学校の方では、施設管理者という立場で必ず管理職と近くの先生が鍵を持っており、体制を整えている。(並木危機管理担当課長)
- ・今22と言ったが、全てそういう形になっているのか。また、私は高津小学校だが正門と裏門があり二箇所の鍵ということだったと思うが、それ以外の例えば校舎の体育館や実際に避難の場所になるところについての鍵も地域管理になっているのか。(横山委員)
- ⇒各学校によって状況が違うところがあるが、基本的には地域の方にお預けしているのは、学校に入る際の門だ。一番メインな門は渡しているが、他の門については、今全部のケースについては説明できない。一義的には各学校とも体育館を避難所として使用することになっているので、体育館の鍵と備蓄倉庫の鍵だ。二年前に確認をしているが、しばらく避難所運営会議等が行われていないところに関しては、本来はその会議で確認するところだが、今地域の方と確認している状況だ。(並木危機管理担当課長)
- ・備蓄倉庫の中を見たが、量的には非常に少ない。避難区域の全ての人があるわけでは無いが、それにしてもあまりにも少なすぎる。そこに消費期限の近いものがあると思うが、期限が切れる時に防災訓練で配り、新しい物を入れれば無駄は無くなる。そういう形で備蓄の食糧も回転させると良い。(日野屋委員)
- ⇒多い、少ないは考えがいろいろあると思うが、川崎市の備蓄計画に基づいて備蓄している。熊本の地震等を受けてちょっと増やそうという動きもあるようだが、現在は前期の区民会議で説明した通り、被害想定上避難所に来る人のうち、物資を必要とする人がこれくらいという計算があり、その人たちの2食分が川崎市では備蓄されている。川崎市で食糧としてアルファ米を備蓄しており、5年期限のものになる。残り1年になったところで各自主防災組織の訓練あるいは高津地区、橘地区の総合の訓練などで活用している。(並木危機管理担当課長)
- ・避難所運営会議が結局はその場だけであって、それを知っている住民がどのくらいいるのかが一番気になる。鍵を持っている人が誰なのか周りの人は知っているのか。それを知らなければ避難所に行っても帰るしかない。私が問題としているのは、会議はオープン

ンに出来るところはオープンにしないと、地域で本当に避難所が避難所として機能しないんじゃないかということだ。避難所運営のあり方という風に提案しているところだ。  
(後藤委員)

横山委員 5期で二つの取組を継続することが必要だという話があった。一つは大型マンションの自治会と避難訓練だ。これについては行政の担当部署と併せて継続することになっていた。もう一つはふくシティたかつということで区役所の1階のホールを障害者団体に開放することだ。実行委員会形式で運営する形でこの4月からも取り組まれていると思うが、障害者差別解消法に関わる現在の高津区の取組の現状について、説明をお願いしたい。(横山委員)

- ・ふくシティたかつの取組に関しては、実行委員会方式で毎月2回活動の紹介および展示等の活動を4月から進めている。(浅見保健福祉センター所長)

#### (4) 会議の進め方

事務局(熊島職員)が、配布資料9ページ「高津区民会議の運営パターン」(案)について説明した。また、秋山副委員長が配布資料11ページ「第6期期間中の運営スケジュールについて」(イメージ)について説明した。主な意見は、以下の通り。なお、具体的な進め方については、課題検討会(8月30日開催)で検討することです承した。

- ・若い人たちの参加を考えると区民会議の6時スタートは早すぎるのではないか。(吉田委員)

⇒課題検討会については、会場の関係で予定通り6時スタートとすることです承した。

⇒今後の会議については、開始時間について検討することを確認した。

- ・課題検討会は、委員の提案課題をグルーピングした物を資料として検討するということが、できれば事前に目を通した上で参加したい。(小宮委員)

⇒グルーピングは、三役と事務局で行う。当日配布ではなく、事前に委員の手元に届くように努力する。

#### □参与からの一言

- ・新しい委員がなられたということでどのような課題が挙がるか楽しみにしていた。5期とはまた違った新しい課題がある。ぜひ活発な意見の中から、私自身も一緒になってこの高津区を良くしていきたいと改めて決意した。(春参与)
- ・今日は勉強させていただいた。特に防災の件等議会で参考になる意見、取り上げなければならない意見がある。これから私も勉強させていただきたい。(宗田参与)

#### □閉会